

平成 25 年度「英語能力判定テスト」における 大淀中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、教育振興基本計画*に基づき、英語イノベーション事業*の一環として、「英語能力判定テスト」を実施いたしました。このテストの目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることにあります。

学習指導要領における中学校英語の目標は、4技能（「読む」「聞く」「話す」「書く」）を総合的に活用できるコミュニケーション能力の育成と示されております。本テストで測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上をめざしてまいります。

- 1 目 的 (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

- 2 対 象 大阪市立大淀中学校
1 年 生 100 名 2 年 生 87 名 3 年 生 88 名

- 3 実 施 日 ・ 3 年 生 平成 25 年 10 月 23 日（水）
・ 2 年 生 平成 26 年 1 月 30 日（木）
・ 1 年 生 平成 26 年 1 月 30 日（木）

4 内 容

| 学年 | テストの種類 | テストの難易度 | テスト内容 | | 満点 スコア |
|-----|--------|-------------|-------|---------|-----------|
| | | | 筆記問題 | リスニング問題 | |
| 3 年 | テストD | 英検 3～5 級レベル | 50 題 | 30 題 | 460 点 |
| 2 年 | テストE | 英検 4～5 級レベル | 40 題 | 25 題 | 400 点 |
| 1 年 | テストF | 英検 5 級レベル | 25 題 | 25 題 | 340 点 |

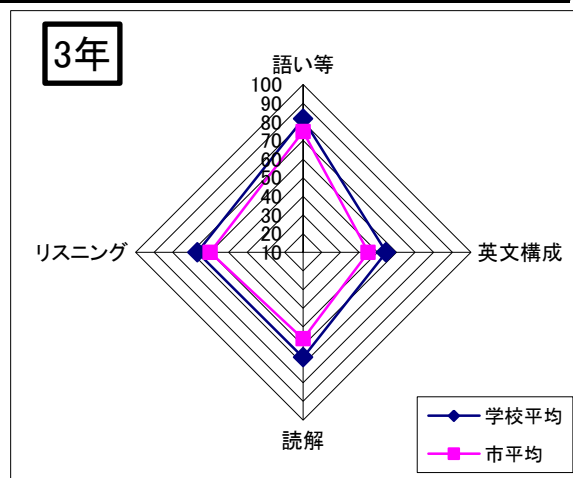
*教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

*英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

「英語能力判定テスト」結果(分野別正答率)の概要と今後の取組

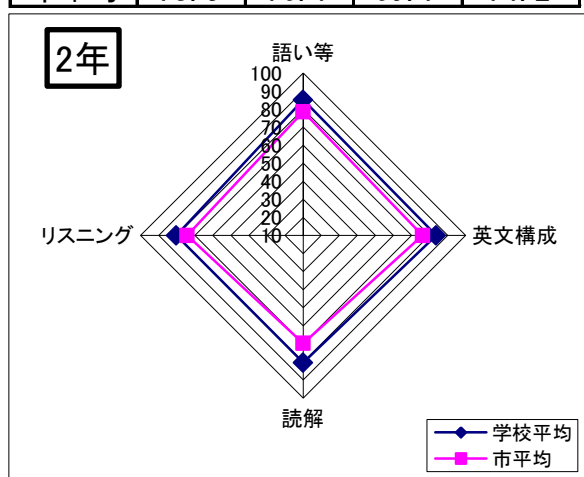
| 3年 | 語い等 | 英文構成 | 読解 | リスニング |
|------|------|------|------|-------|
| 学校平均 | 81.6 | 54.5 | 66.4 | 66.8 |
| 市平均 | 74.8 | 44.9 | 56.4 | 59.9 |

(%)



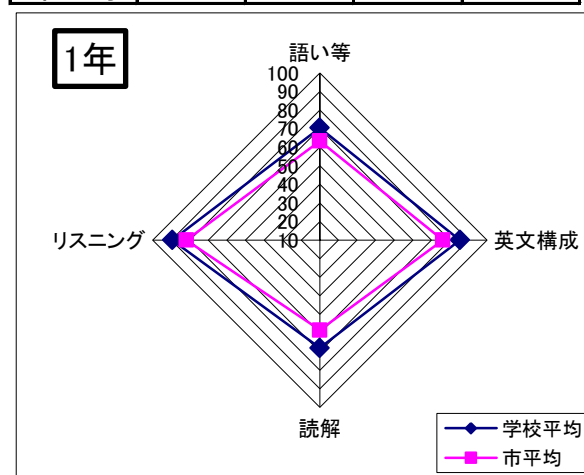
| 2年 | 語い等 | 英文構成 | 読解 | リスニング |
|------|------|------|------|-------|
| 学校平均 | 85.1 | 83.7 | 80.4 | 80.2 |
| 市平均 | 78.5 | 76.1 | 69.7 | 74.2 |

(%)



| 1年 | 語い等 | 英文構成 | 読解 | リスニング |
|------|------|------|------|-------|
| 学校平均 | 70.4 | 85.4 | 68 | 89.4 |
| 市平均 | 63.3 | 76.2 | 58.4 | 81.8 |

(%)



結果の概要と結果をふまえた今後の取組

3年

英検3～5級レベル:スコア 0～460点

《結果の概要》

「語い等」の分野の正答率は、約8割と高い一方、「英文構成」については約5割程度にとどまっている。全般的に「読むこと」の指導を充実させることが必要である。

《結果をふまえた今後の取組》

語いの定着に関しては、単語テストを毎回実施することで一定の成果をあげていると考えられるため、継続して取り組む。「英文構成」は、基本的な語順、文法事項の復習を繰り返し行い、「読解力」の向上につなげる。「リスニング」力向上には、ICTを活用し、帯活動を行っている。

2年

英検4～5級レベル:スコア 0～400点

《結果の概要》

「語い等」「英文構成」「読解」「リスニング」のすべての分野において約8割と高い正答率で、市平均を上回っている。

《結果をふまえた今後の取組》

小テストや課題への取り組みを複数教員でめ細かく指導したことが一定の効果をあげていると考えられる。
今後、更なる学力の向上をめざし、教材の工夫・改善に取り組む。

1年

英検5級レベル:スコア 0～340点

《結果の概要》

「リスニング」分野の正答率は9割弱と高い一方、「語い等」「読解」の分野は7割前後にとどまっている。語いの習得運用能力の強化が課題である。

《結果をふまえた今後の取組》

語いに関しては、単語の音・意味・文字をつなげて学習することを習慣化させる。既習事項の復習を繰り返し行いながら読解力の向上につなげていく。